静岡県立大学附属図書館

シリーズ　私の一冊の本

薬学部　　眞鍋　敬　先生

W. K. ハイゼンベルグ 著　　山崎　和夫　訳

『部分と全体：私の生涯の偉大な出会いと対話』

閲覧室１階　289.3/H　51　　みすず書房　出版

「将来は大学で働く研究者になりたい」と私自身が考えるきっかけとなった本です。

不純な動機で読み始めました。私が大学生のときに履修していた教養科目のドイツ語で、本書の原著の一部がテキストとして使われていました。宿題でそれを和訳しなければならず、翻訳版が出版されていることを知った私は、自分で和訳することなく翻訳版をそのまま写そうと思い購入しました。

しかし読んでみて、その世界に引き込まれました。

本書は、量子力学の創成に大きな役割を果たした物理学者ハイゼンベルクの自伝です。副題は「私の生涯の偉大な出会いと対話」となっており、様々な人たちといろいろな場面でなされた対話が綴られています。ボーア、パウリ、アインシュタインなど、量子力学の黎明期に活躍した物理学の巨人たちが登場します。対話の内容は様々です。量子力学の話題はもちろんのこと、政治や宗教・音楽などについても哲学的対話を繰り広げます。このような知的創造の場に立ち会うことができればどんなにエキサイティングで楽しいだろうと、大学生の私は将来に思いを馳せました。

科学とは哲学だ。大学とは思想を創る場所だ。いま本書を読み返してあらためて感じます。